

メイキングオブ『国保のデータヘルス計画 策定・推進ガイド』

帝京大学大学院
公衆衛生学研究科教授

福田 吉治

今年度は新しいデータヘルス計画(と特定健康診査等実施計画)の策定の年です。そ

こで、半年くらい前から、計画策定をサポートするための資料をホームページで公開していました。これまで行つてきた研修会の資料をもとに、データヘルス計画の基本、

計画策定と評価の理論、個別保健事業の評価と見直しなどをまとめたものです。評価や計画策定のためのワークシートや解説動画も公開しました。

研修会などで紹介したりしたこともあり、多くの方に閲覧していただき、そして、社会保険出版社の方の目に留まり、今回、『国保のデータヘルス計画 策定・推進ガイド』として出版することになりました。

7月中に出版予定だったのですが、8月

中旬に出版となりました。出版が少し遅れ

る原因にもなった、いくつかの苦労話をお話しします。

用語が不正確・不統一.. 研修会などを繰り返しやつていると、徐々に用語が不正確になります。例えは、特定保健指導での「初回面接」が「初回面談」になつてたりもしました。また、統一され

ていらない用語もありました。国などの資料と同じ用語を使用したり、少なくとも本の中では統一するようにしました。

情報が古い.. 来年度からの新しい計画に向けて多くの改定が行われています。関連する資料は分厚く、情報をアップデートするには大変だと改めて実感しました。

誤字脱字・乱文.. タイプミスはかなり多く、文章も不正確で、分かりにくいものも結構ありました。ホームページで勝手に公

開するなら許されても、出版社から本として出版する場合、誤字脱字は避けるべきです。根気強くチェックしてください担当者に感謝です。

方向性.. 国の方針もぶれている感じもあります。また、都道府県によつても方針が異なります。特に、混乱している標準化(様式や指標)をどう明示するかは悩んだところです。

このように問題も多々ありますが、よいところも挙げておきます。

ほぼ一人で執筆するのは大変でしたが、執筆者が複数いると、意見や方針が異なることもあります。独りよがりの偏見もあるかもしれません、全編を通して一貫しているので、混乱なく読み進めることができ



福田 吉治

YOSHIHARU FUKUDA

プロフィール

出身地 大分県

・帝京大学大学院 公衆衛生学研究科 研究科長・教授

・帝京大学産業環境保健学センター センター長

【略歴】

平成3年熊本大学医学部卒業。平成10年熊本大学大学院医学研究科修了(社会医学専攻)。
国立医療・病院管理研究所(医療政策研究部)、東京医科歯科大学医学部(公衆衛生学講座)、国立保健医療科学院(疫学部)を経て、平成22年に山口大学医学部地域医療学講座教授に就任。平成27年から帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授、平成30年には同研究科長。

【専門分野】

公衆衛生全般。特に健康増進・健康づくり政策・健康教育・社会疫学(健康の社会格差、健康の社会的決定要因)、地域医療・保健・産業保健など。近年では行動経済学で用いられる「ナッジ理論」に基づいて公衆衛生施策を指導。

【学会・委員】

国民健康保険中央会 国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会
国民健康保険団体連合会 保健事業支援・評価委員会
委員(東京都・埼玉県)など

【主な著書】

「ナッジを応用した健康づくりガイドブック」共著2023年 帝京大学大学院公衆衛生学研究科
「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)からの教訓—これまでの検証と今後の提言」
共著 2021年 大修館書店
「健康行動理論による研究と実践」共著 2019年 医学書院
他論文多数

本ガイドには、標準的な指標(例)や計画策定と評価のワークシートを掲載しています。ワークシートを埋めることで、評価や計画策定がスムーズにできるようになっております。なお、特定健康診査・特定保健指導がスムーズにできるようになっています。なまく、特定健康診査・特定保健指導だけではなく、推進のポイントについて事業ごとに記載しました。

次年度以降は、計画をもとに事業を推進していく必要があります。そのため、計画策定だけではなく、推進のポイントについて事業ごとに記載しました。データヘルス計画を推進する障害になつているのが担当者の異動です。新しく担当になつた方への研修などをしっかりと行い、早めにキヤツチアップしてもらうことが大切です。本ガイドは、研修会などのテキストと

して使用することも可能です。
ということで、自分の本の宣伝みたいになつてしましました(といいますか、全く伝えますが)、ご協力いただいた方のためにも、そして、データヘルス計画策定でお困りの方のためにも、たくさん購入し、業務の参考にしていただきたいので、今回は、このネタでお許しください。

記事提供 社会保険出版社